



観光コンサルタント 西川 丈次にし かわ じょう じの



～ホスピタリティによる創客～ ④8

日本一家族写真を残す観光地

それを目にしたとき
思わず笑ってしまい、
次の瞬間には悲しくな
ってしまいました。以
前からそれは目にして
いたものですが、先日
京都を訪ねたときに、
その多さに愕然とし
てしまったのです。

「自撮り棒」という
スマホを先端にセット
する棒で、すでに多く
の人たちに認
知された商品
です。カップ
ルやグループ、そして、
外国人観光客がこの
「自撮り棒」を使って
写真を撮っています。

これが今の観光地の当
たり前となりつつある
姿です。

確かに昔から三脚や
自動タイマーといった
自撮り商品、機能は有
りました。しかし、デ
ジカメが軽量、薄型に
なり、スマホが主流と
なった今、「自撮り棒」
が観光地の風景を変え
ようとしています。

以前、娘たちと昔の
家族旅行の写真を観て
いたときの事です。

「このとき、パパは行
かなかつたんだね。だ
って、写っていないも
ん」。ショックでし
た。確かに私の写った
写真は1枚もありませ
ん。新しいカメラだっ

たので、旅行のすべて
の写真を私が撮ってい
たのです。それ以後の
旅行では、誰かに撮っ
てもらおうかと考えま
したが、シャイな私に
とって、それは非常に
勇気のいることとし
た。断られたらどうし
よう。嫌な顔をされる
かもしれない。たぶん
同じように考えて躊躇

する方も多いのではな
いでしょうか。そうし
た意味で確かにこの
「自撮り棒」は画期的
で、ニーズに応えた素
晴らしいアイデア商
品だと思います。そし

て何よりも便利で楽し
い商品です。しかし、
これで本当に良いので
しょうか。商品を否定
するつもりはありません
が、おもてなしが叫
ばれるなか、観光地に
おいてこの風景を当た
り前にしてしまってい
いのでしょうか。

「シャッターを押し
てもらっても良いです
か」と、気軽に声を掛
けられない環境。それ
以上に「撮りましょ
うか」と温かく声をかけ
るおもてなしの心を持
った「人」がたくさん
いる観光地でなければ
なりません。その観光
地「おもてなし」度
を表すバロメーターが
「自撮り棒」の数です。
みなさんの町に、「自
撮り棒」が増えてきた
ら、それは赤信号だと
認識しなければなりま
せん。写真は背景によ
っては、カメラを縦に
するちよつとした手間
を忘れないで下さい。
4人の笑顔が写ってい
ても背景が切れてしま
ってはせっかくの写真
が台無しです。このひ
と手間こそが、最幸の
おもてなしなのです。

「自撮り棒」増加は赤信号

8年間の旅行会社での勤務後、船井総合研究所に入社。観光ビジネスチー
ムのリーダー・チーフ観光コンサルタントとして活躍。ホスピタリティをテ
ーマとした講演、執筆、ブログ、メルマガは好評で多くのファンを持つ。20年
間の観光コンサルタント業で養われた専門性と異業種の成功事例を融合さ
せ、観光業界の新しい在り方とネットワークづくりを追求し、株式会社観光
ビジネスコンサルタントを起業。同社、代表取締役社長。

「シャッターを押し
てもらっても良いです
か」と、気軽に声を掛
けられない環境。それ
以上に「撮りましょ
うか」と温かく声をかけ
るおもてなしの心を持
った「人」がたくさん
いる観光地でなければ
なりません。その観光
地「おもてなし」度
を表すバロメーターが
「自撮り棒」の数です。
みなさんの町に、「自
撮り棒」が増えてきた
ら、それは赤信号だと
認識しなければなりま
せん。写真は背景によ
っては、カメラを縦に
するちよつとした手間
を忘れないで下さい。
4人の笑顔が写ってい
ても背景が切れてしま
ってはせっかくの写真
が台無しです。このひ
と手間こそが、最幸の
おもてなしなのです。

<おもてなし、ホスピタリティを学ぶ>

旬刊 旅行新聞 連載コラム『もてなし上手』

[おもてなし・ホスピタリティ コンサルタント西川丈次の公式ホームページへ](#)